

## 小児科

### 一般目標（G I O）

小児に対し親近感を持って接し、同時に母親を中心とした家族から必要な情報を収集できるようにすることが大きな目標です。

当院の小児科は感染症を中心に general に診療をするのはもちろんのこと、循環器疾患や神経疾患、腎疾患に専門的な診療もしています。一般小児科の診療技能をまず習得し、入院患者の受け持ちと外来診療によって基本的な小児疾患を経験します。

### 行動目標（S B O s）

1. 疾患を診るのではなく、児および家族を取り巻く環境を含めたトータルケアを基本として、児および家族と良好な人間関係を確立できる。
2. 家族(母親)から診断に必要な情報、病児の発育歴、既往歴、予防接種歴などについての確に聴取できる。
3. 小児、乳幼児に不安を与えず診察できる。
4. 全身を観察し、児の動作・行動・顔色・食欲・機嫌を参考にして全身状態を把握し、重症度を判断できる。
5. 小児の口腔・咽頭・鼓膜の視診、胸部の聴診、腹部の聴診・触診を行い評価・説明できる。
6. 小児の正常な身体発達・精神発達を理解し、原始反射・姿勢反応を参考に評価・説明できる。成長・発達の障害を経験する。(必須項目、サマリー等の提出が必要)
7. 水痘・麻疹・風疹・突発性発疹・手足口病・溶連菌感染症などを他の臨床所見を参考に鑑別できる。
8. 小児の正常値を理解し、末梢血液検査・生化学検査・血清免疫検査、一般尿検査(尿沈査採尿方法)を評価できる。
9. 単純X線検査を評価でき、必要に応じ専門医に相談できる。
10. CT・MRI 検査(適切な鎮静法を含む)の実施、評価ができ、必要に応じ専門医に相談できる。
11. 小児の細菌性感染症の原因菌を理解し、細菌培養・感受性検査に基づいた抗生剤の選択ができる。
12. 乳児健診、予防接種の知識を持ち、家族に適切な指示、指導ができる。
13. 診察所見などから適切な輸液・薬剤、検査を考え、上級医・指導医に相談できる。
14. 小児に対する初期救急蘇生ができる。
15. 体重別・体表面積別の薬用量を理解し、基本的薬剤の薬効・服薬方法について理解し、患児および家族にわかりやすく説明できる。
16. 上級医のもとで乳幼児を含む小児の採血、皮下注射、静脈注射・点滴静注ができる
17. 上級医のもとで採血や静脈留針によるライン確保などの基本的な手技を肘静脈、手背静脈、足踵などの部位からの確保できる
18. 病児の年齢、疾患などに応じて輸液の適応を確定でき、輸液の種類、必要量を定めることができる。
19. 虐待について理解し、その対応について述べることができる。

## 方略（LS）

### 1. オリエンテーション

- ① 主に外来・病棟担当医についてもらうこととなりますが、小児の診察の仕方、母親、家族への話し方について学んでください。
- ② 外来、救急外来からの入院患者については、処置（点滴など）に積極的に参加してください。
- ③ 周産期センターに入院があったときには、処置の見学等をしてください。緊急帝王切開等にも積極的に立ち会ってください。
- ④ ローテート中にできるだけ多くの患者の副主治医となり、主治医の指導のもとに診療を行ってください。
- ⑤ 担当医になった患者の入院総括を必ず書いてください。

### 2. 病棟研修

- ① ローテート開始時には、指導医や病棟看護課長と面談し、自己紹介や研修目標の設定を行う。ローテート終了時には、評価表の記載とともに feed back を受ける。
- ② 指導医から、小児医療の特殊性・小児の発達・小児病棟における感染対策・小児医療制度について講義を受ける。
- ③ 小児科病棟では、担当医として入院患者を受け持つ。主治医（指導医）の指導のもとで問診や身体診察や検査データの把握を行い、治療計画の立案に参加する。毎日担当患者の回診を行ない、指導医と方針を相談する。
- ④ 周産期センターでは、回診について新生児医療の特殊性を理解する。軽症の異常新生児の診察を行い、新生児医療を体験する。産科新生児室の回診につき、正常新生児の診察が出来るようにする。新生児の出生に立ち合い、出生時の診察や組成を経験する。
- ⑤ 採血や点滴確保など小児に対する診療手技を行なう。
- ⑥ インフォームドコンセントの実際を学び、簡単な事項については主治医の指導のもとで自ら行なう。
- ⑦ 入院診療計画書や退院療養計画書を、主治医の指導のもとで自ら作成する。
- ⑧ 診療情報提供書、証明書、死亡診断書などを、主治医の指導のもとで自ら記載する（主治医の連名が必要）。

### 3. 外来研修

- ① 午前中の一般外来（一般外来研修の一部として行う。）
  - 1) 小児科医の診察につき、診察の方法やコツを習得する。
  - 2) 家族から患者の情報を得たり、家族に病状の説明をしたりする方法を習得する。
- ② 午後の専門外来
  - 1) 各分野の特殊疾患や長期管理についての知識を習得する。
  - 2) 心エコーなどの画像診断の技術を習得する。
- ③ 3) 救急外来
  - 1) 救急外来での症例を経験して、小児でよく見られる症状（発熱・嘔吐・下痢・痙攣・呼吸困難）をきたす疾患について、理解し対応できるようにする。
  - 2) 小児の重篤な疾患や急変する可能性の強い疾患をスクリーニングできるよ

うにする。

- 3) 小児の緊急を要する疾患に対して、迅速に対応できるように知識と手技を身につける。

#### 4. 症例検討会

- ① 周産期カンファレンス(毎週火 17:00～ 周産期センター)
  - 1) 参加者：小児科医、産科医、新生児センター看護師・助産師
  - 2) 治療チームの一員として積極的に問題点を提言する。
- ② 小児カンファレンス(毎金曜 16:30～ 3A 病棟)
  - 1) 参加者：小児科医
  - 2) 基本的な小児疾患を題材とし、最近の治療法を含め勉強する。
  - 3) 研修医は入院症例についてプレゼンテーションし問題点を検討する。

#### 5. 以下のチーム医療に参加する

ICT

#### 6. 自主学習

- ① 図書館の書籍、インターネット、DVDも活用して知識（ガイドラインなど）、手技、態度を学ぶ。
- ② スキルラボにて手技の習得を行う。

### 評価（E v）

1. 評価は、観察記録とし、研修医および指導医が1か月毎に、プログラム全体の評価票 I-Ⅲと、小児科専用の評価票にて行う。
2. 必須項目についてはサマリー等を事務局に提出。

### 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 病棟処置	一般外来研 修	小児一般外 来（適宜 病棟処置）	病棟回診 病棟処置	小児一般外 来（適宜 病棟処置）
午後	心臓外来 心エコー検 査	神経外来 周産期カン ファ	心エコー検 査 予防接種	アレルギー 外来	腎外来 乳児検診 小児科カン ファ